

高等学校「リーディング」における 読解過程に関する推論研究

濱口 脩・藤原陽子¹・中村愛人
(2004年9月30日受理)

A Study on Inferences of Reading Process in "Reading" Classes at High School

Osamu Hamaguchi, Yoko Fujiwara and Yoshito Nakamura

The aim of this study is to make clear the significance of inferences in high school English reading classes. The kinds of inference are mainly divided into these two. (1) bridging inferences (2) elaborative inferences. (1) are inferences with which one grasps text information correctly and reads the text consistently. (2) are inferences with which one reads a text more deeply and elaboratively. One does not necessarily use elaborative inferences. In many English classes, teachers tend to focus only on bridging inferences. Therefore, the effect of using elaborative inferences is examined in this study.

Key words : inferences, motivation, pre-reading activities

キーワード：推論，動機付け，プレリーディング活動

1. 本研究の目的

本論文の主な目的は、高等学校「リーディング」において推論を組み込んだ読解指導をすることの意義を明らかにすることである。すなわち、学習者が読解をする過程で推論を意識的に行うことにより直接的に、また学習者の動機付けを高めることにより間接的に学習者のテキストの理解や英語能力の向上にどの程度効果があるかということを検証していくものである。なお、本研究では推論に関するこの効果を証明するためにある条件を固定し検証するけれども、筆者の勤務校で授業においてできる範囲内において行うものであるため、実験方法等学習者に一定の配慮をするものとする。そのため、クラス間で比較対照実験を実施する際の方法等はあくまで学習者の英語能力向上を優先させ、広く一般化することを目的とした実験研究の類ではない。

2. 本研究で使用する推論

2.1 読解における推論

テキスト理解は推論による読み手の積極的な意味の構築によってはじめて達成される。その際に使われる推論とは、与えられたテキストから既知情報に基づいて新情報を生成することである。

An inference is the generation of new semantic information from old semantic information in a given context. (Rickheit, Schnotz, & Strohner, 1985: 8)

読み手はテキストを首尾一貫性のあるものとして理解しようとする基準を設けており、それが満たされないときには、因果関係と照応関係の推論を働かせて首尾一貫性を見出そうとするということが示されている。このように、リーディングにおいて推論をしていくことは内容理解のために重要な要素であるといえる。それでは、どのような推論指導をどうやって行うことが望ましいのだろうか。

リーディングにおける推論の種類は大きく分けて
(1) テキスト理解に最低限必要とされる推論

¹ 私立如水館高等学校

(bridging inferences) と、(2) テキスト内容を膨らませ精緻化する推論 (elaborative inferences) の 2 つある (Long, 1990)。(1) は、テキスト情報を正確に読み取り首尾一貫性のあるものとして捉える推論のことである。さらに、テキストを正確に理解するために読み手が必ずしなければならないものである。

それに比べて (2) は、テキスト内容をより豊かにしたり、あるいは精緻化する推論で、読み手によっては必ずしも使用されない推論である。

2. 2本研究で用いる推論

本研究では (2) テキスト内容を膨らませ精緻化する推論に焦点を当てる。望ましい読みとは、テキスト情報の正確な理解 (テキスト理解に最低限必要とされる推論) と、読み手の持つ背景知識に基づく適切な推論 (テキスト内容を膨らませ精緻化する推論) による双方向の情報処理により読み手の中に意味が構築されていくことである。ところが現実の学校現場では、前者の推論のみが強調されて教えられていないだろうか。しかし、読みの楽しさといった観点から考えると、後者の推論を用いることによって、それぞれの読み手が持つ背景知識に基づいて自由な発想で多様な内容理解をすることも重要なのではないのか。さらに、そうすることによって読み手はより深い段階で読解を行うことができるのではないだろうか。このような考え方に基いて、本研究ではテキスト内容を膨らませ精緻化する推論指導の効果や影響について検討したい。

3. 授業実践による実験

3.1 学習者の背景知識と学習動機

テキスト内容を膨らませ精緻化する推論は通常の読みではあまり生成されないが、先行テキストからの制約が強い場合と、読み手の背景知識が多い場合は生成される。また、読み手の動機によっても左右されると考えられている (Graser *et al.*, 1996)。このことから、本研究では、

(ア) テキスト内容を膨らませ精緻化する推論の生成を促進するために、教材化することによって大幅にカットされてしまっている物語の冒頭を含む前半部分の内容を原典から日本語に翻訳したものを読ませてから指導に入っていく。

(イ) Gardner, R. C. (1985) の学習動機に関するアンケートを指導前と指導後に実施する。

3.2 対象学習者

私立高校普通科3年生39名

3.3 指導方法

テキストの内容について、Long(1990)の提唱する以下の推論を求める質問を学習者にする。

- ①結果がどうなるかを予測する推論
- ②名詞句を具体化する推論
- ③道具の推論
- ④登場人物の行為がどのようになされたかに関する推論
- ⑤現在の状況に関する推論

3.4 使用教材

英語「リーディング」教科書

Lesson 12 “The Landlady”

これは「ロンドンからバースに初めて仕事でやってきたウィーバー青年が下宿を探したが、その女主人は謎の人物であり、彼は恐ろしい結末が控えていることを知らない。」というサスペンスに富む面白い読物となっている。

3.5 授業の記述

3.5.1 授業の記述一回目

日時：6月3日(木) 5限目

授業対象者：39名

授業最初に学習動機に関するアンケートを実施した。“The Landlady”の原典のうちカットされている冒頭部分を事前に学習者に宿題として読んでおくように指示した(プレリーディング活動)。それについて生徒に発問し、概要を復習できるようにした。特に大事な部分に関しては、授業者とともに読んで内容を確認した。

プレリーディング活動では、

- ①結果がどうなるかを予測する推論を導入。

導入方法：

ここまでの内容を基に、主人公の名前、年齢、社会的立場、今おかれている状況、女主人の様子等、女主人が何者であるのか、主人公に何が起きるのかといったことについて自然な形で学習者に推測させた。

プレリーディング活動後の本教材に関しては、

- ⑤現在の状況に関する推論、②名詞句を具体化する推論、④登場人物の行為がどのようになされたかに関する推論を導入。

導入方法：

⑤宿帳がピアノの上で開かれておかれている状況、②ピリーの頭の中にある人物達、④ピリーが声に出して記憶をたどる行為について、授業者の方からはテキスト情報以上の詳しいことには言及せずに、学習者に

推測させたり自由に絵で表現させた。

考察

プレリーディング活動の中で教材化によって原典がカットされた部分を、日本語訳で全て読ませたことは、生徒の動機付けにつながり、物語に対する興味を強くしたように感じた。学習者が描く絵は様々で、同じ文章を読んでも受け止め方には幅があることが分かった。ただ、学習者によっては、絵を技術的に上手く描こうとすることに重点が置かれてしまった場合もあるので、次回はことばで推測を表現させたり、英文構造の学習の方に力をいれなければならないと感じた。

3.5.2 授業の記述二回目

日時：6月4日（金）3限目

授業対象者：39名

③道具の推論、④登場人物の行為がどのようになされたかに関する推論、②名詞句を具体化する推論を導入。

導入方法：

③銀の紅茶用のお盆、④女主人が部屋に入ってきてピリーが振り向くところ、⑤背が高く、若くてハンサムなピリーの顔、について、それぞれ推測させたり、絵に描いてもらった。

今回の授業では前回の反省から英文の構造、訳の仕方の方にもう少し力を入れた。

考察

学習者が授業の要領を分かってきたように感じた。

3.5.3 授業の記述三回目

日時：6月11日（金）3限目

授業対象者：38名

今回の授業で使用する箇所には、原典から何箇所にも及んで削られている部分があり、削られている箇所については、学習者に事前に配布しておいた日本語訳を読ませることによってカット部分の補完をした。

④+⑤登場人物の行為がどのようになされたかの推論と現在の状況に関する推論を合わせたもの、④登場人物の行為がどのようになされたかに関する推論、②名詞句を具体化する推論を導入。

導入方法：

④+⑤ウィーバーがソファの端に座っている場面、④女主人がティーカップ越しにウィーバーを見つめる場面、②ウィーバーの感じる独特の臭いがする女主人の様子、についてそれぞれの場面を推測させた。

これまでの授業の反省から今回はそれぞれについて推測した内容を絵で表す方法と、ことばで表現する方法のどちらか一方を学習者個人に選んでもらった。なぜなら、絵を描くのが苦手である学習者は頭の中で状況が想像できていても、それを描くことができないからである。さらに、絵を技術的に上手く描くことに執着したり、絵を状況が掴めない形で描く学習者がいるためである。しかし、絵を使うことを選択する学習者は依然多く、自由に想像することの手助けになっているようである。

④+⑤について学習者が表現したことば

「ウィーバーはソファの端に小さく座って少し困った表情をしている」、「ピリーは彼女が言ったことに少し困った表情を浮かべ、ソファの端に座った」、「ソファの端に座るぐらいあきれている状態」、「おばさんの存在に嫌がっている表情をしているピリー」、「ピリーはちょっと困ったかんで、笑う時は、ひきつった感じの笑い方。肩が上がっており、こまごまと座っている様子」、「ピリーはかっこいい顔をしてセンスよく座っている」、「ピリーは複雑な表情でソファの端に座っている」、

④について学習者が表現したことば

「ティーカップの縁から怪しい目線でウィーバーを見つめつけていた」、「ピリーは考えごとをしながらもお茶をすすり始めたが、彼女がずっと自分のことをティーカップ越しに見ていることに気付いていた」、「ピリーが、おばさんの目線にぞくっとしている所」、「おばちゃんのかすかに口元に笑みがあり、ピリーはどういう表情もできず、無表情で絶対おばんの方を見ないようにしている」、「縁のところからにやっとしてみている」、「彼はうっすら笑いを浮かべながらティーカップ越しの目を彼の顔に向けていた」

②について学習者が表現したことば

「彼女の臭いがピリーに何かを思い出す鍵となった」

考察

テキストの中で削られている部分は話の重要な流れを示すものであり、これを学習者が読んだことによって様々な反応があった。女主人とピリーの状況をつかむためには不可欠な部分である。

絵とことばのどちらで表現するかを選べるのは、様々な学習者にとって表現の幅が広がり、自由な想像がよりできるように感じた。学習者の中には、絵とことばの両方を用いて表現する者もあり、見る側も学習者が何を頭の中に想像しているかが分かりやすかった。いろんな表現方法を学習者に使用してもらうことは、より自由に推論してもらうことの鍵になるのかも

しれない。

3.5.4 授業の記述四回目

日時：6月17日（木）5限目

授業対象者：36名

⑤現在の状況に関する推論，②名詞句を具体化する推論を導入。

導入方法：

⑤女主人の意味するところの，3階にいるマルホランドとテンブルの状況，②ピリーのきれいな歯，をそれぞれ絵と文字のどちらか，または両方で表現させた。

⑤について学習者が表現したことば

「気絶した状態にいる」，「檻の中で，髪やひげがめちゃくちゃびとって，片方の手は手錠でつながれ，きたない」，「椅子に座らされたまま，死んでいる」，「3階にいる彼らは，何年前に死んでいた。でも，彼らの死体は，日にちがたっているのにもかかわらず，死んだ時のままで腐っていなかった」，「3階にみんなですわっとる。紅茶のみながら」

②について学習者が表現したことば

「歯並びがよくてピカピカ光るきれいな歯」，「テンブルよりもマルホランドよりも歯がきれいで，見映えがよいウィーバー」，「ピリーは歯が命」

考察

このクラスの学習者は他の授業中では比較的騒がしく，授業にあまり集中力がある方ではないが，この授業では話の内容自体によく興味をもっている。絵やことばで推測をすることによって，全員が話の展開について行くことに役立っている。

3.5.5 授業の記述五回目

日時：6月18日（金）3限目

授業対象者：37名

②名詞句を具体化する推論，④登場人物の行為がどのようになされたかに関する推論を導入。

導入方法：

②テンブルさんのしみ一つない赤ちゃんのような身体，④下唇をかんで部屋の角を眺めるピリーの様子をそれぞれ絵と文字のどちらか，または両方で表現させた。

②について学習者が表現したことば

「テンブルさんの身体はすべすべできれい」，「テンブルさんの身体は足から頭にかけて傷，しみなど全くなくとてもきれいな体をしていた」，「色が白くて，しみが一つもない」，「顔が卵みたいにつるつるしている」

④について学習者が表現したことば

「ピリーは彼女が言ったことをまだ理解できず，紅茶をすすりながら考えていた。しかし，部屋の隅を見つめながら考えているピリーを彼女は何かをしようとピリーを見つめている」，「少し怒ったような目つきで部屋の遠くの角を見ている」，「ピリーは内心ちょっと怖かった」，「すごく微妙な空気の中，1点を見つめていた」，「なるべく彼女と目を合わせないように部屋の角を見つめていた」

考察

物語の中に高校生にとってやや刺激的な描写があり，学習者は少し当惑したような様子だった。しかし絵における表現はさまざまであり，多くの学習者が自由に想像して情景を表現していた。

3.5.6 授業の記述六回目

日時：6月22日（火）6限目

授業対象者：39名

④登場人物の行為がどのようになされたかに関する推論を2箇所導入。

導入方法：

④剥製であるダックスフントの背中をさわるピリーや，紅茶をいれている女主人を絵もしくはことば，または両方で表現してもらった。

ピリーについて学習者が表現したことば

「ピリーはオウム，ダックスフントが生きていたかと思っていたが死んでいた。しかもそれを彼女がやったと聞いて驚きで止まっている」，「生きてるように精巧に作られた犬は，思っていた動き回る，温かさがあるものではなく冷たいもので，自然なやわらかさではなく，堅いので驚いている。一瞬息を呑んだかもしれない」，「感心はしているが，気味が悪いので冷や汗を少しかいている。しかし，あまりにリアルなので，興味深々で見入っている」，「触った瞬間にピクッと手が止まった」，「犬は生きているものではないのだと，改めて思った。ピリーは複雑な気持ちになった」

女主人について学習者が表現したことば

「彼女は自分が作った剥製を自慢しながら，ピリーに起こることを想像しながら紅茶を入れている」，「ニヤニヤしながら，薬を入れて紅茶を作っている」，「こっそりと何かの薬を入れている」

考察

紅茶を入れている女主人の様子に関する推論に関しては，「テキスト理解に最低限必要とされる推論 (bridging inferences)」の方に入るが，今回の読解において非

常に重要な部分であったので問うことにした。やはり皆同じような想像が多かったので、これはそれぞれの個人が自由に推論を行う「テキスト内容を膨らませ精緻化する推論 (elaborative inferences)」ではないと確信した。

3.5.6 授業の記述七回目

日時：6月24日(木) 6限目

授業対象者：38名

① 結果がどうなるかを予測する推論を導入。

導入方法：

① 「ピターアーモンドの味がかすかにする紅茶」(青酸カリ入りの紅茶)を飲んだピリーがこの先どうなっていくかについて予想して、絵やことばで表現させた。

この先の予想について学習者が表現したことは「ピリーはフラフラになる」、「ピリーは意識がもうろうとして倒れた。その後、ピリーはおばさんに運ばれ、3階にいる2人のところに連れて行かれた。ピリーが目覚ますことはなかった」、「ピリーは意識がもうろうとしてきて、眠った後、剥製にされる」、「ピリーは立ち上がって青酸カリの毒がまわり倒れ、おばちゃんは思い通りにことが運び、うれしくて大笑いし、そのあとピリーを剥製に変える」

考察

みんな同じような結果になることを予測しているにもかかわらず、はっきり本文の中でその描写を読みたいと思っているようだった。自分の想像で恐怖を感じたりすることを難しく感じている。さらに、最後に導入した推論については、「テキスト内容を膨らませ精緻化する推論 (elaborative inferences)」というより、「テキスト理解に最低限必要とされる推論 (bridging inferences)」であると考えられる。なぜなら、結果を予想する推論であるにもかかわらず、学習者にとって当然予想される結果であって、それぞれが自由に想像を膨らませるものではないからである。

3.6 指導後

以下の面から考察を行う。

- (1) 指導前後の学習動機に関するアンケート
- (2) 指導後のテキスト内容理解度確認 (Appendix 2)
- (3) 指導後の授業全体の意識調査 (Appendix 3)

(1) 学習動機アンケートは指導の後で次のようになった。満点が20点のアンケート調査のうち、指導前の平均点が17.9点、指導後が18.7点という結果になっ

た。指導の後でやや学習者の学習動機の数値が高くなっているが、わずか0.8点の差であるため今回の指導の効果が出ているかどうかについてははっきりとしたことは言えない。

(2) 指導後のテキスト内容理解確認を行ったが、筆者の問題作成の難易度が低すぎるという問題があり、学習者のほとんどが満点を取る結果となってしまった(学習者39人中36人が満点、2人が1点減点、一人が2点減点)。よって、この結果は指導後の効果をみる基準にあたらないものとする。とはいえ、筆者の予想以上に学習者が物語の内容を理解していたということは言える。

(3) 全体の感想

「もっと英語で書かれた物語を読んですらすら訳せるようになりたい」、「初めて、英語の物語をこんな形でやったので楽しかった。こんなやり方なら前より話が理解できた気がします」、「内容的には面白かったと思う」、「できれば、描きやすい絵を題にして欲しい…」、「もっと速く授業を進めて多くの物語を読みたい」、「楽しく授業がうけられた」、「もう少し授業を速く進めて欲しいです」、「絵を描くのは楽しかったけど、ひとつひとつピリーの感情とか描くのは難しいと思った」、「この授業は他の英語より楽しかった。英語の勉強というよりは、話の内容の方が頭に残っている。だから、勉強になったかは分らん」、「こうゆう授業は面白いので、こんな感じでやってほしい」、「これからもこうゆう物語のものをやりたいです。『女主人』は最後があっけなかった」、「英文を読んで理解する力がまだないと思う。これからは難しすぎず面白い物語を読みたい」、「絵は困るけど、読んでみてとても楽しかったです。今まで自分が思っていた訳と違うところがあるのでもっといろいろな読みたいと思いました」、「こうゆう面白いストーリーを次からもやって欲しいです。『女主人』はとても楽しかったです」、「このままでいいと思う」、「英文を日本語に訳すときうまく訳せず意味が通らなく分かりづらかった。もっと簡単な本がいい」、「もし次の授業で物語をやるとしたら結末がはっきりとした物語にしてほしいです」、「女主人は会いたくないなと思った。もし一人で宿に泊まるようなことがある祭、絶対に女主人っぽい人の所には泊らなと思った」、「もっと日本語に分かりやすく訳せたらよかったかも。いまいち日本語がおかしくて話がややこしく感じた」、「『女主人』が恐かったけど楽しかったです。いろいろな物語を(きちんと話が終わる)やってほしいです」、「実際にこんな女主人がいた

ら恐いと思った。こんな宿に泊まりたくない」、「これから先の話が気になる」、「この『女主人』を読んで英語の物語への意識が変わりました。普通のリーディングみたいに説明文を読むのではなく、このように小説やミステリーを読むほうが頭に残るしそこで覚えた単語は忘れないと思った」、「読み返してみると、恐ろしい話だなあと考えた。これからピリリーがどうなってしまうのかすごく気になる」

全体の考察

学習者の感想を見てみると、物語自体への興味、関心は高いことがわかる。本研究が内容理解に関連したことを目的としているため、今回の指導においては英文の構造や関係詞のかかり方等はあまり強調せず、複雑な英文は授業者が手助けしながら意味をとっていった。つまり、話の展開をできるだけ自然な形で追うことができるように、難しい文法や構文の説明に時間をかけることはせず、それよりも話の中のそれぞれの場面を想像することを促したのである。そのため、学習者は授業で取り扱う量をもっと増やしてほしいと感じている者が多かった。これは物語の内容に興味を持っているので、その展開が気になるところからである。本研究が、テキスト内容を膨らませ精緻化する推論 (elaborative inferences) をすることの内容理解に対する効果を見ることを目的としているので、動機と内容理解の両面が有意差があるほどではなかったが、幾分でも高くなったことからその効果はあったといえるのではないか。その半面、内容理解はよく出来たが、英語自体を勉強したり、最初意味が分からなかった英文を訳すことができた、という感覚があまり感じられなかったという感想を持っている学習者も多く見受けられた。また、文の構造に注意があまり払われない一方で、内容の情景を想像しているので単語レベルにおいては記憶に残りやすいという意見も見られた。

4. 今後の課題

話の内容理解を大事にしながら、英語の構造や文法、訳し方等についても学習者に力をつけさせることをしていきたい。しかし、そのためには学習者の興味を失わせないために一定の読書の速さが必要となってくる。このことから、学習者が自らの読みを確立するよう支援することと学習者の物語への興味を持続することの両方をするためにどのような手立てが考えられるか今後考えていきたい。また、本研究では、テキスト内容を膨らませ精緻化する推論 (elaborative inferences) をするためにそれぞれの場면을絵やこと

ばで表現するという方法をとったが、他にこの推論を行わせることができるどのような活動が考えられるのか、ということも今後の課題としたい。

【参考文献】

- Gardner, R. C. & McIntyre, P. D. (1993). *A student's contribution to second language learning*. Language Teaching. pp 26.
- Graesser, A. C., Swamer, S. S., Baggett, W. B., & Sell, M. A. (1996). "New models of deep comprehension." B. K. Britton & A. C. Graesser (Eds.), *Models of understanding text* (pp. 1-32). Mahwah, NJ: Erlbaum.
- Long, D.L. (1990). "Goal, event, and state inferences: An investigation of inference generation during story comprehension." A. C. Graesser & G. H. Bower (Eds.), *Inferences and text comprehension* (pp. 89-102). San Diego, CA: Academic Press.
- Rickheit, G., Schnotz, W., & Strohner, H. (1985). "The concept of inference in discourse comprehension." G. Rickheit & H. Strohner (Eds.), *Inferences in text processing* (pp. 3-49). Amsterdam: North-Holland.

Appendix 1 学習動機に関するアンケート

- 私は積極的にこれまで授業中に習ったことを思い出そうとする。
 - 非常によくする
 - ほとんどしない
 - ときどきする
- もし今の学校の英語の授業に出席することができないなら、わたしは
 - 学校外で英語に触れようとする(本や新聞を読んだり、英語が話せる人に話しかける)
 - わざわざ英語を学習しない
 - どこか違う学校や授業に出る
- 授業で学習している英語で理解できないことがあれば、
 - すぐに先生に聞く
 - 試験直前になってから聞くだけである
 - 忘れることにする
- 学校の宿題について、わたしは
 - いくらか努力はするが、全精力を注ぐわけではない
 - 全てのことを理解するまで非常に丁寧に取り組む
 - 忘れることにする

5. 正直に言うと英語の学習について、わたしは
 - a) ただ授業についていくのに十分なくらいやるだけである
 - b) 勉強をどれだけやったかではなく、運と元々持っている知識で乗り切るだけである
 - c) 本当に真剣に取り組んでいる
6. もし先生が余分な課題をやる人を探していたら、わたしは
 - a) 絶対に自発的にはやらない
 - b) 絶対に自発的にやる
 - c) もし先生が直接自分に頼んで来たらやる。
7. 提出していた課題が戻ってきたら、わたしは
 - a) いつも間違いを訂正する
 - b) どこかにやって忘れてしまう
 - c) ざっと見直すかわざわざ訂正はしない
8. 授業中、わたしは
 - a) できるだけ自発的に発言する
 - b) 簡単な問題だけ答える
 - c) 何も言わない
9. 英語の映画（字幕があってもよい）があったら、わたしは
 - a) 決して観ない
 - b) 時々観る
 - c) できるだけ観るようにする
10. 英語の歌が聞こえてきたら、わたしは
 - a) 簡単なことばだけに注意を払いながら聴く
 - b) すべてのことばを注意深く理解しようとして聴く
 - c) スイッチを切る
4. 女主人は宿帳の中の二人のことをなんと言いましたか。
 - a. 背が高くて若くてハンサム。
 - b. 年輩のおじさん。
 - c. 酔っぱらい。
5. 宿帳の最後の記載はいつでしたか。
 - a. 2, 3年前
 - b. 1ヶ月前
 - c. 1週間前
6. 女主人と話しているときピリーはソファアのどこにいましたか。
 - a. 真ん中
 - b. 端
 - c. 座ろうとしなかった。
7. 女主人からどのような臭いがしているとピリーは思いましたか。
 - a. 酔潰けたクルミなど。
 - b. 汗
 - c. バラ
8. ピリーはどこで宿帳の二人の名前を見たことがあると確信しましたか。
 - a. 本
 - b. ラジオ
 - c. 新聞
9. 女主人は宿帳の中の二人はどこにいると言いましたか。
 - a. 外国
 - b. 女主人の家の3階
 - c. 彼らの家

Appendix 2 授業終了後の読解テスト

「女主人」クイズ

あてはまると思うものに○を付けなさい。

1. ピリーはどこで宿帳を見つけましたか。
 - a. 本棚の中
 - b. ピアノの上
 - c. 台所
2. ピリーは宿帳の中の二人の名前を見たとき、何と思いましたか。
 - a. 見覚えがある。
 - b. 親戚の名前だ。
 - c. 全く知らない。
3. ピリーが宿帳を見ているとき、女主人は何を手に持って部屋に入ってきましたか。
 - a. サッカーボール
 - b. 別の宿帳
 - c. 銀の紅茶用のお盆
11. 女主人が特に誉めたのはピリーの体のどこの部分ですか。
 - a. 歯
 - b. 手
 - c. 髪
12. テンプルさんの体に一つもなかったのは何でしたか。
 - a. ニキビ
 - b. しみ
 - c. 傷
13. ピリーは部屋の隅を見つめている時、どんな様子でしたか。
 - a. ぼーっとしている。
 - b. 頭をかいている。

- c. 唇をかんでいる。
14. 女主人はペットのイヌや鳥になにをしていましたか。
- 剥製にする。
 - たたく。
 - 服を着せる。
15. ビリーが飲んだ紅茶はどんな味がしましたか。
- 甘い。
 - かすかに苦いアーモンド。
 - しょっぱい。

Appendix 3 授業後アンケート

- それぞれの場面や人物について、絵や言葉で自由に表現することについてどう思いましたか。
 - 大変良い
 - 良い
 - ふつう
 - 悪い
 - 大変悪い
- 1の理由を答えなさい。
- ビリーの心情を理解することができましたか。
 - 完全にできた
 - まあまあできた
 - ふつう
 - あまりできなかった
 - 全くできなかった
- 3の理由を答えなさい。
- これまでの授業を受けてきて、英語で書かれた物語についての意識は変わりましたか。
 - 非常に変わった
 - まあまあ変わった
 - ふつう
 - あまり変わらなかった
 - 全く変わらなかった
- これから他の英語の作品も読んでみたくなりましたか。
 - 非常に読んでみたい
 - まあまあ読んでみたい
 - ふつう
 - あまり読みたくない
 - 全く読みたくない
- 「女主人」の授業のこれまでの感想や、これからはこうして欲しいなどの要望があったら何でも自由に書いてみて下さい。

Appendix 4 授業後の学習者の感想

第一回

「続きが気になる」、「このようなミステリーの英語

を読んでいくのはすごく楽しい」、「絵を描いて楽しかった」、「おもしろかった、絵に夢中!」、「物語だったので、少し楽しかった!楽しみながら授業ができたって感じで、眠たくならなかつたし」、「初めてこういう授業をして楽しかったです。またしてみたいです」、「絵を描くので時間がかかったけど、楽しかった」、「びっくり!」、「続きが知りたい」、「絵は苦手だけど楽しかったです」、「想像するのは意外に難しい」

第二回

「絵を描くのは苦手です。先生らしい授業だと思う(笑)」、「また絵が描きたい」、「ビリーはカッコいい人なんだなあと思った」、「早く続きを!」、「今日もよく想像した!」、「絵を描くのは大変です」、「おもしろいです」、「内容が少しずつ分かってきた」、「想像力をふくらませられる。話の流れが分かりやすい」、「今日の絵は昨日より難しかった」、「熟語が難しくて分からない」、「分からない単語とが多いので、しっかり覚えていこう」、「普通にやるよりおもしろい」

第三回

学習者の授業後の感想

「もっと絵が上手になりたい」、「おもしろかった」、「絵がむずいです」、「おばちゃんの気持ち悪さがだんだんわかってきた」、「結構難しかったけど、イメージしながら描くのが楽しかったです」、「また絵を描きたい」、「今日はちょっと絵の難度が高かったのもっと簡単に!!」、「どうなるんじやろうか!?気になります」、「楽しかったです」、「このおばさんは怖い」、「だんだん物語が読めてきた。次も読みたい」、「キモイババーだと思った」、「なんかすごい物語だなあ...」、「絵が描きにくかった。でも楽しかった」、「集中できた」、「話の続きがきになる」

第四回

「女主人が怖いです。楽しかったです」、「静かにできた」、「女主人はすごく怖い、と思った。だんだん話が見えてきたと思う」、「男の子2人がどうなっているか楽しみ」、「おばさんが怖い」、「いい絵がかけた」、「ちょっと進むのがはやかった気がした。お話の続きが気になります」、「もっと早く」、「ビリーの運命やいかに!!」、「いつもより描きやすかった」、「楽しかった、でも絵がへたじゃー」、「楽しかったです。次が気になります」、「話の内容がわかってきた」、「絵をかくことに集中しすぎて、文章をききそびれてしまう。文が進むのがはやい」、「絵を描く意味はよくわかりませんが、話は面白いのでいいと思います」、「おばさんのなぞが明らかになりだしておもしろかった。悪かったところは特にない」、「だんだん怖くなってきた」

「ピリーをまた新たにしれた」

第五回

「次が気になります。楽しみです」、「早く!!」、「今日は短かったのでよくわかった」、「楽しかった。次が気になる」、「次週ピリーの行方が楽しみです」、「集中してできた」、「だいぶん見えてきたかなと思う」、「よい感じに授業が受けられた気がする」、「次はいよいよクライマックスへ!!って感じですね」、「今日はちょっと絵をリアルに描きすぎた。まだ先は読めんな」、「楽しい授業でした」、「はやく結果が知りたい!!何かちょっと気持ち悪い」、「おばちゃんの怪しさが出てきている」、「絵を描くのは楽しい」、「裸体は描けません」、「おそろしくなってきたよ。ピリーもやばそう」、「lookの使い方を覚えた」、「ピリーが想像できた」

第六回

「ピリーは死ぬはず!」、「恐ろしい人だ」、「おもれ

かった」、「内容がこわい」、「今日の展開も面白かった」、「いまいち話がどうなってるか分からない」、「話がどんどん怖くなってきた」、「早く続きが見たい、知りたい!」、「気持ち悪いと思った」、「ますます怪しい」、「話が読めてきた。わくわくしてきた」、「大体分かってきた。このおばちゃんはこわい!」

第七回

「最後の終わり方が納得できなかった」、「なんかあっけなかった」、「すっきり終わってほしかった」、「この後やっぱりピリーも死んじゃって剥製になっちゃうのかなあ。ここで終わっちゃったけどこの続きが気になる」、「おばちゃんきもい」、「物語を考えながら楽しく授業できたと思う」、「なんか最後の方がよく分からなかったです」、「楽しかったです。続きがあったらもっと楽しいのになあ」、「なんか最後があっけなかった」、「結局意味深なまま終わったのでそれが気がかりだった。でもミステリ系の話で面白かった」